

要望書（回答）

1. 高齢者福祉の充実について

苫小牧市においては高齢者人口が年々増加しており、地域でのつながりを持ち、生きがいを感じながら日常生活を送るためには、高齢者福祉施策の一層の充実が極めて重要です。苫小牧市老人クラブ連合会では、「高齢者を一人にさせない」「家に籠らせない」の観点から、各単位クラブにおいて「老人クラブだより（会報・行事案内）」の発行や、例会でのレクリエーション、声掛け、安否確認などを通じて相互の働きかけを行っています。

高齢者が住み慣れた地域で互いに支え合えるよう、地域コミュニティ活動の一層の充実に向けた施策を下記のとおり要望いたします。

（1）高齢者食堂・シニア食堂（仮）の実施

単身高齢者の増加に伴い、一人で食事をとる方が多くなっています。仲間同士が共に食事をする場の設置は重要ですが、単位クラブのみでの実施は財政的に困難です。つきましては、「子ども食堂」の事例にならい、助成金の交付や制度的な支援を要望いたします。

【回答】（福祉部総合福祉課 担当）

高齢者食堂やシニア食堂は、高齢者を対象とした食事提供の場のほか、調理実習や食事を通じた交流、コミュニケーション等を通じた交流などを行う場として認識しております。

ご要望のとおり、孤食を防ぎ、高齢の皆様が多くの方と楽しく食事をする機会の創出は大切との認識はございますが、対象者についても、仲間内など特定されているのか、高齢者であれば誰でも利用できるものなのか、様々あると思います。

本市においても、コロナ禍前には、老人クラブやふれあいサロンにおいて、食事をしながら集まる機会を作っていたことは承知をしておりますが、担い手不足等の様々な理由により、コロナの影響が落ち着いた現在においても、なかなか食事の機会を作ることが難しいとのお話を伺っております。

高齢化の進展に伴い高齢者福祉に要する様々な費用が増大する中で、市単独での助成は難しいところですが、今回の要望を受けまして、まずは各老人クラブのシニア食堂に関する実態把握や意向などを確認したいと考えております。

(2) 草刈り（除草）の支援について

現在、苫小牧市では 85 歳以上の単身高齢者世帯等を対象に「ふれあい収集」が実施されています。これと同様に、高齢者にとっては自宅の草刈り（除草）も生活上の大変な課題であることから、新たな支援施策の導入を要望いたします。

【回答】（福祉部総合福祉課 担当）

草刈りにお困りのことと思いますが、自宅敷地内の草刈りは所有者の方にお願いしております。

市の事業として行うことについては、必要性や支援体制確保、道内他都市の状況などから、現在は考えていないところです。

市内で低料金により草刈り業務を実施する事業者としてはシルバー人材センターがありますが、センターからは、草刈りの問い合わせも多い状況でご希望に添えない場合があること、また、酷暑作業を避けるため、7月中旬から1か月程度は草刈りの作業を停止していると伺っております。

このような状況を踏まえ、事業者への依頼のほか、ご家族、地域の方のご協力を得るなどのご対応をお願いしたいと考えておりますのでご理解ください。

(3) 高齢者の健康づくりについて

苫小牧市では、年々高齢者人口は増加しており、できるだけ在宅生活を続けられるよう各単位クラブにおいて「健康づくり」についての取り組みを行っています。こうした取組をより一層促進するための施策を要望いたします。

【回答】（福祉部介護福祉課 担当）

健康づくり（介護予防）においては、閉じこもり予防や人とのつながりづくりなど、社会的フレイル予防の取組が重要となります。市では「人と人とがつながる地域づくり」を目指し、高齢者自身が自らできることを考え、地域に役割を持ちながらお互いに支え合う暮らしができるよう、リーフレットの配布などを通じて介護予防の啓発を行っております。

また、道具を使わず「いつでも・どこでも・一人でも」できるシルバーリハビリ体操の普及に向け、令和 2 年度からシルバーリハビリ体操指導士の養成を開始し、現在市内に 97 名の指導士が活動しています。令和 7 年 2 月には、市内 5 地区の支部を取りまとめる「とまこまいシルリハ指導士会」も立ち上りました。

さらに、リハビリ専門職が専門的知見を活かして技術的助言を行い、地域における介護予防の取組の機能強化と高齢者の自立支援を促す地域リハビリテーション活動支援事業も展開しております。

こうした事業を各単位クラブにおいて活用いただくことで、健康づくりに役立てていただきたいと考えております。今後も、高齢者の健康づくりの必要性について理解を広げるとともに、地域の実情に合わせた介護予防の取組が行えるよう、普及啓発に努めてまいります。

なお、単位老人クラブにおいてシルバーリハビリ体操の実施を希望される場合は、

介護福祉課までご連絡ください。実施に向けたお手伝いをさせていただきます。

2. 認知症対策について

高齢者の5人に1人が認知症になると言われる「2025年問題」を迎えるにあたって、苦小牧市老人クラブ連合会の会員においても関心が高まっています。認知症に関する新薬、皮下注射の登場など、早期発見での「予防」にこれまで以上に期待が高まっています。

一方で、多くの高齢者が「自分は大丈夫」との思いから「受診」に至らないなど課題があります。こうした背景から下記のとおり要望いたします。

(1) 認知症に対する市民理解の取り組みの強化について

多くの高齢者は「自分は大丈夫」という思いや認知症への不安、偏見があります。そのため、受診につながらない事例が見受けられ、認知症に対する正しい理解を広めるため、市民啓発の取組強化を要望いたします。

【回答】（福祉部介護福祉課 担当）

認知症は、誰もがなり得る身近な病気である一方、「自分は大丈夫」と考えて受診が遅れる場合や、不安や偏見から相談につながらりにくい場合があることがございます。

現在、市では市民啓発を強化する取組の一つとして、認知症の方が「いつ、どこで、どのような」医療・介護サービスを受けられるのか、症状に応じたサービス提供の流れを地域ごとにまとめた「認知症ケアパス（ほっとガイド）」を作成しております。

このガイドは、認知症の方やご家族だけでなく、市民の皆さんにとっても、認知症の症状の理解や適切な対応方法、相談窓口の把握に役立つものであり、認知症理解のツールとして幅広く活用していただけるものと考えております。

ほっとガイドは、ホームページや広報紙、介護福祉課窓口、地域包括支援センター、認知症に関するイベントなどで周知しているほか、令和6年度からは市内医療機関での配布範囲を拡充し、より多くの方にご利用いただけるよう努めているところです。

引き続き、講演会や広報紙などを通じて、認知症の予防や対応に関する正しい情報をわかりやすくお伝えするとともに、地域で支え合える環境づくりを推進してまいります。

(2) 予防検査の費用助成について

認知症の予防検査が1回あたり1万円以上と高額なため、検査受診に至らないことが多くなっています。予防検査費用に対する助成等、負担軽減策を要望いたします。

【回答】（福祉部介護福祉課 担当）

認知症は誰もがなり得る身近な病気であり、早期に気づき、適切な対応を行うことが、その後の生活の質を維持するうえで重要であると認識しています。

検査費用への助成につきましては、現状の財政状況等を踏まえると新たな制度を直ちに設けることは難しい状況にございます。

市としては認知症の早期発見につながる取組を推進するため、認知症サポーター養

成講座や市民の皆様への各種普及啓発活動などに地域包括支援センターなどと連携し取り組んでいるところでございます。

今後も、国や道の動向を注視しつつ、認知症対策について、関係機関との連携を図りながら、可能な取組を進めてまいりたいと考えております。

3. これからのバス交通について

これまで市内バス路線の運行維持について要望してまいりましたが、昨年度の路線再編により、結果として減便が行われました。その影響により、多くの高齢者が通院や買い物に不便を強いられております。

今後、抜本的な対策を講じなければ、高齢者の生活に一層深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。公共交通の重要性に鑑み、下記のとおり要望いたします。

現在のバス路線を維持していただくためにも運転手確保のための支援、乗客が少ない路線について赤字分を補填するなど利用者の利便性を損なうことのない運行が継続できるための市の施策を要望いたします。

【回答】（総合政策部まちづくり推進課 担当）

市内バス路線の再編につきましては、令和6年4月に実施したところであります、1割減の便数とはなってしまったものの、医療機関への便は維持するとともに、運転手不足解消に一定の効果があったものと、市内バス路線事業者から伺っております。

運転手確保のための支援としましては、5月27日に北海道運輸局主催の「バス・トラック運転体験会及び合同就職相談会」を支援したほか、9月23日には道南バス主催の「会社説明会＆バス運転体験会」を支援しました。一定程度の就職希望者確保につながったという結果もあり、今後も同様の運転手確保に向けた取組を継続して支援してまいります。

なお、市内路線バスに対する補助としましては、北海道と共同で広域生活路線への補助、さらには市内公共交通路線への補助を行っており、今後も継続していく予定でございます。ダイヤ改正等、小さな変更はあり得るもの、現時点では大規模な再編は想定していないことを市内路線バス事業者から伺っており、本市としましても、路線の維持に向け、できる限りの支援に努めてまいります。